



きずな

野木町国際交流協会 (NIA)

発行：野木町国際交流協会 情報交流部

所在地：栃木県下都賀郡野木町丸林571 野木町公民館内

TEL 0280-57-4188 <http://www.nogitown.com>

i toh_masa@yahoo.co.jp 2017年10月1日発行

野木町民参加のもとに、諸外国の方々との相互理解と友好を深めるための活動を行いました。

町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「おもてなし英会話」が開催されました

「おもてなし英会話」の講座が6月から開催されました。ALTのキャンデス・ヘンスリーさんから2020年の東京オリンピックに向けて、英語でおもてなしできるようになりたいという方々が楽しく学んでいます。訪れる外国人旅行者の方々に、野木町を楽しんで頂きたく、英会話でおもてなしをします。



真剣に聴き、講座を楽しんでいました。



町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「読み聞かせ英会話」が開催されました

町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「読み聞かせ英会話」が開催されました

「読み聞かせ英会話」の講座が6月から開催されました。ママと女の子のお子様が、楽しくALTのキャンデス・ヘンスリー先生と英会話を、お勉強をしました。



町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「大人の世界史講座」が開催されました

6月21日は、「アメリカの独立と民主主義～アメリカ独立戦争～」の講座に、7月21日は、「トランプのアメリカを歴史から考える、アメリカの分断はなぜ起こったのか？」2回の講座に大勢の出席者で会場が埋まり、わかりやすい関根先生の説明を

アメリカ モロンゴバレーからのリポート

野木町国際交流協会リポーター

No. 001 由美子サザー

野木町を離れ、再度アメリカに移り住んでから、5ヶ月になります。先日 娘から「日本にあって海外にないもの。海外にあって日本にないもの。何？」と聞かれました。学校の宿題でだされたそうです。「日本にあって、海外にないもの」って何でしょう。

納豆やダルマなどの物、夏祭りやお正月のような伝統文化、協調性やモラルの高さといった国民性…等 いろいろ思い浮かぶと思います。

それでは、「海外にあって、日本にないもの」はどうでしょう。

海外といつても 国によって多種多様な答えがでてくるでしょう。

以前アメリカに7年在住した後、日本に帰国した日本人の私が、一番恋しくなった「海外にあって、日本にないもの」は「至る所で他人と交わす一言二言」でした。

アメリカでは、スーパー・郵便局・レストラン・駐車場等至る所で、列で待っている間やドアですれ違う際に言葉を交わします。初対面、常連客、人種や年齢は、関係ありません。目が合えば声を掛け合

う、それ違えば声を掛け合う、といった感じです。「元気？暑いね」「そのシャツ素敵ね。どこで買ったの？」など、その場限りの一言二言を至る所で交わします。

アメリカに住み始めたばかりの頃、全く馴染みのない環境のなか疎外感を感じ、英語に自信もなく、気持ちも塞ぎがちだった外国人の私にとって この「他人と交わす一言二言」が アメリカ社会に馴染むきっかけとなり、アメリカ社会を理解する大きな助けともなりました。流暢に話せなくても、お互い知らなくても、一言二言交わすだけで 人の繋がりを感じ、少しずつ「外国」が「私の住む町」になっていくのを感じました。

隣近所の付き合いが希薄になってきている昨今の日本では、日本人同士でも声をかけあうことが少なくなっています。相手が外国人となれば尚更、言語の違いの不安などから 声をかけることを避ける人がほとんどです。そのため、日本人との接点が全くなく、この「外国・日本」で疎外感を感じながら暮らす外国人が多くいます。

話す言葉や馴染みある文化は違っても、子を持つ親の悩みや、仕事に対する不満や不安、人生をより良いものにしたいという願い、そういった「日本にあって、外国にもあるもの」を共有することで、人と人の絆は生まれると思うのです。

遠方にいる家族や友達ではなく、同じ町に住む皆さんのがける一言がつくる絆が、ひとつでも多く芽生えることを願います。

Ms. Denise and Mr. Jason, welcome to Nogimachi

3月迄、野木町の ALT だった Denise さんと Jason さんが、ひまわりフェスティバルを見に来られました。また、煉瓦窯の英語講師を務めた Denise さんは、久しぶりに煉瓦窯を訪れ、懐かしさがひとしおのようでした。



【奥井様からのエッセイを 2 回にわたり掲載致します】

中国の大学で日本語教師を体験して(前編)

奥井 靖 日本語教師

サラリーマン時代中国の現地法人を担当していた関係から、中国に関心があり、退職を機に中国の大学で日本語教師を務めてみました(2015年8月～2017年7月)。以下の文は私の体験と側聞したことなので、多少事実と異なるかもしれません、ご容赦ください。



中国の大学はとにかく大きい。私が在職していた大学(山東省)の敷地は東京ドーム 40 個分。そのキャンパス内に学生(24000 人)が全寮制の生活を送っています。また多くの教職員と家族、学食で働いている人たちもキャンパス内の宿舎にいます。つまり 2 万数千の人たちがこのキャンパス内で生活していることになります。中国は社会主义の国ですので私有地はありません。土地は國のもの、強いて言えばみんなのものです。大学はオープンで、近くに住むお年寄りや、犬の



散歩に多くの人がやって来ます。毎日がさながらオープンキャンパスです。裏山には近隣住民が勝手に造ったアスレチックや、山羊が放牧されていました、個人の墓もあつたりしました。キャンパスに墓を作つていいのか?と学生に質問したところ、「昔からあつたのだから、いいんじゃないですか」と何とも大陸的な回答が返ってきました。

日本語学部は 1 学年 1 クラス 30 名 × 2 クラスで構成されていました。ただ 3 年になると 2 割くらいの学生は日本に留学します(日本留学の比率は大学によってかなりの差があります)。学生に日本語を勉強するきっかけを聞いたところ、8 割の学生は「日本のアニメ」と答えました。改めて日本のアニメはすごいと思いました。日本に興味を持って、日本人と仲よくしようと思っている中国人は少なくないのです。



マンモス学生寮



日本語クラブパーティ



有名人 ヤギ学長



新入生歓迎クラブ紹介(写真は日本語クラブ)

一次回春期号に続く一

日本語教室が丸林中央公園でBBQ会を開催！！

8月27日BBQ会を丸林中央公園で催しました。インドネシア8人、アメリカ2人、カナダ1人と先生たち9人の20人で、快適な日を楽しく過ごしました。インドネシアの人たちは、鳥や羊の肉の料理、豆腐料理、卵料理、ケーキ類等たくさん差し入れてくれました。大変おいしかったです。また、テーブルを一つに集合したので、アメリカ人からインドネシアの人へ、帰ったら何をしたいのか？など鋭い質問等もあり、話が盛り上りました。



「なぜ私はホームスティを受け入れるのか」

会員 鶴岡 学

このテーマで「なぜ？」を7回自問自答して繰り返して行き着いた先は・・・ここ野木町ってすごく良いところだよーって自信持ってアピールしたい為なんだと行き着いた。豊かな自然、オープンマインドな人、都会も田舎も行き来できる距離感。この野木町に住んで、近隣に住んでいる方々とも交流し合って、今ここに住んでいることに誇りを持ちたい。自分は英語力があるわけでもない。野木町は世界遺産があるわけでもない。だから国際交流しないのではない！

野木町だから、都会にも通える！

野木町だから、自然も近い！気球も見える！

野木町だから、我が家に会える！

野木町だから、我が家を通してコミュニティや素敵な方々を紹介できる！！

野木町だから…

ここだからこそ、できること。

ここだから、自分が実現したい生き方ができる。

意識的に人と交流しあい、今生きていることの【喜び】を感じながら生きたい。

いつ何が起きてもおかしくない世の中。

今この幸運を噛み締めて一步ずつ前に進もう。



編集後記

皆様のご協力により、きずな第12号を発刊することができました。心よりお礼を申し上げます。

次回は春季号の発刊を予定しております。

twitter、Facebook、ホームページ等で旬の情報を、皆様へお伝えできるよう努めてまいります。

よろしくお願ひいたします。

(発行責任者 伊東記)